



ストリートチルドレン芸術祭

Art of the Children Living on the Street

—あなたがいてくれてよかった—

2014年度 活動報告書

(2014年4月～2015年3月)



ストリートチルドレン芸術祭

2015年（平成27）年5月

目次

1. ご挨拶	3
2. ストリーチルドレン芸術祭とは	4
3. 2015年版カレンダー制作について ..	7
4. 2014年度活動概要	10
5. 2014年度会計報告	18
6. 終わりに	21

1. ご挨拶

2005年に活動が始まりましたストリートチルドレン芸術祭活動は2014年で発足10周年となりました。これまで続けてこられたのは、多くの方々のご支援とご協力の賜と、厚く御礼申し上げます。

お陰をもちまして、チャリティカレンダー制作は、版を重ね10版となり、多くの方々からご購入をいただき、累計1645万円（2014年版まで）の寄付を海外のストリートチルドレン支援施設に届けることができました。

2014年度は、10周年記念事業として、ストリートチルドレン芸術祭10周年記念誌を刊行することができました。

これもひとえに、多くの皆様方のおかげと、深く感謝申し上げます。また、協賛企業様、個人・団体からいただきましたご寄付は、当団体の活動運営資金となりました。学生にとっては、学業の一環として奨学金の役割となり、ストリートチルドレン自立支援活動の意義を一層深めることが出来ました。誠にありがとうございました。

世界に1億人以上いると言われているストリートチルドレン。私どもボランティア団体は、このような境遇のこどもたちの自立を応援しております。

振り返りますと、2005年3月25日、愛・地球博瀬戸会場市民パビリオンで行われたオープニングセレモニーに、「ストリートチルドレン芸術祭」が参加いたしました。そこからスタートとなり、中学生、高校生、大学生、社会人など、多くの参加協力を得て、今日に至ることができました。

これまで、ストリートチルドレンの絵を目にした人々が集い、今自分が出来ることに参加してきました。この無理のない柔らかな組織・運営がこれまで続けてきた要因の一つと思われます。更に、発足後数年間は、中学生が活動の中心となって学校教育と結びついて進めてまいりました。それを引き継ぎ、現在は大学生がサークル活動化しています。学校教育と連携した活動が、ストリートチルドレン芸術祭の特色の一つであると思います。

10周年を機にさらなる活動の充実を目指して、新たな一步を踏み出したいと存じます。これまで以上のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2015年5月吉日

ストリートチルドレン芸術祭代表 中島洋一郎

2. ストリートチルドレン芸術祭とは

今日、世界では貧困、紛争、虐待など様々な理由により住む家がないため、路上生活を余儀なくされているストリートチルドレンといわれる子どもたちが 1 億人いると言われてます。彼らは生きるために、学校へ通うこともできず、ゴミを拾いお金に換えたり、物乞いしたりすることで日々を懸命に生きています。さらに、彼らは飢餓の危険に直面しているだけでなく、誘拐されて子ども兵として戦場に送り込まれる、臓器を奪われる、性的な被害に遭うなど、さまざまな脅威にさらされています。

『ストリートチルドレン芸術祭』が誕生したのは 2005 年のことでした。路上で暮らす子どもたちをただ単にかわいそうと見るのではなく、彼らの描く絵を通じて、彼らの存在や思い・感性・可能性を一人でも多くの人々に実感してもらえたらという願いから、ストリートチルドレンに特化した芸術祭を開催する組織として世界で初めて誕生しました。ストリートチルドレン芸術祭は有給スタッフ不在の無償ボランティア団体です。当初は熱海市立小嵐中学校の生徒・教職員のほか、各地の小中学校の教員、国際協力関係の団体職員、会社員、主婦、大学生、高校生など、内外 30 名ほどのスタッフで構成されていました。世界 100 か国以上に広がる国際協力機構（JICA）のネットワークや NGO 団体、世界の若者たちのネットワークなどの協力を得て、世界の子どもたちの絵は集められています。

東京に本部を置く『ストリートチルドレン芸術祭実行委員会』が制作するチャリティカレンダーは、ヤンキース松井秀喜選手、女優の藤原紀香ら、各界の著名人と静岡の中学生たちが、子どもたちのために掲載用の作品を無償で選出したのがはじまりでした。これまでに世界中の子どもたちから 1000 点を超える作品が寄せられてきました。ここで得られた収益はストリートチルドレン支援をしている現地 NGO 協力のもと、こどもたちの自立支援や生活改善、学校へ行くための費用などに活用されています。

そして、芸術祭の趣旨に賛同した東北福祉大学・生田目学文ゼミが 2007 年からカレンダー作りに参加したのが、私たち東北福祉大事務局のはじまりです。3 年間のゼミ内での活動を経て 2010 年からは大学公認の国際ボランティアサークルとして、より多くの学生が活動に加わり、活動範囲も広がりました。またこの 3 年間は東京本部と東北福祉大事務局がそれぞれにカレンダー制作を行っていましたが、2011 年からは、多くの方々にご協力いただきながら、東北福祉大事務局の学生が主体となってカレンダー制作、販売ならびに絵の展示会などを行っております。

2005 年から活動が始まったストリートチルドレン芸術祭も今年で 10 周年を迎えました。2015 年も、カレンダーや原画展を通して、ストリートチルドレンや世界中で支援を必要としている子どもたちの思いや存在をより多くの方々へお伝えし、活動の更なる発展を目指していきたいと思っております。

○活動の趣旨

この一枚の絵は、私たちストリートチルドレン芸術祭の活動の原点です。

「将来自分が住みたい家」というテーマで、多くの子どもは田園風景に広がる小さな家を描く中、彼だけが、お母さんのお腹の中にいる胎児を描きました。彼は、「だって自分が15年間生きてきた中でここが一番安全だから…。」というコメントを寄せたのです。



作者：ジェイソン（男子）
（2005年作品 提供時15歳）
国：フィリピン

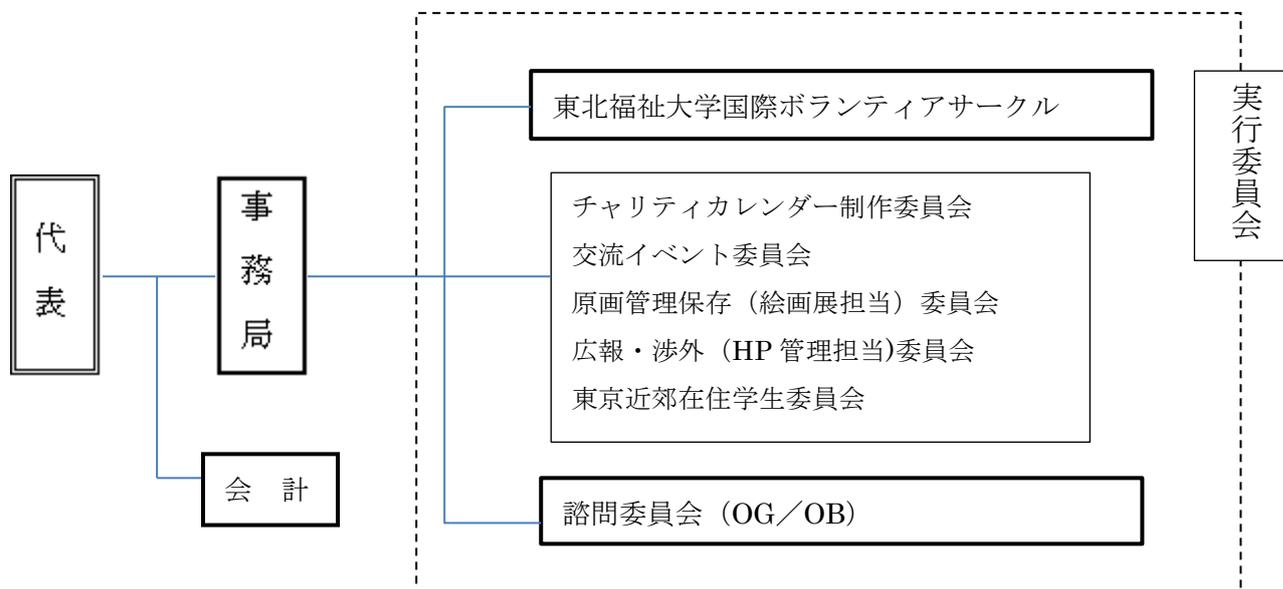


『世界の子どもたちが 安心して暮らせる安全な環境』

ストリートチルドレンをはじめ様々な困難な環境のもと生きている子どもたちが描く絵を通して、彼らの存在、思い、可能性をより多くの方にしっていただき、世界の子どもたちが安心して暮らせるような環境づくりのための支援活動を行うことを目的としています。

○組織概要

ストリートチルドレン芸術祭組織図



ストリートチルドレン芸術祭の活動運営主体は、東北福祉大学国際ボランティアサークルです。また、事務局のもとに企画ごとの実行委員会を設け、活動の運営をしていきます。

3. 2015年版チャリティカレンダー制作について

私たちは路上生活を強いられているストリートチルドレンと呼ばれる子どもたちの支援を行うことを目的とし、チャリティカレンダーを制作しています。

2015年版チャリティカレンダーのテーマは「幸せ」です。それぞれの国や地域、文化の違いから、一人ひとりが思い描く幸せに同じものではなく、世界には様々な幸せの形が存在していると思います。そこで、私たちは世界中の子どもたちに「幸せ」をテーマに絵を描いてもらい、子どもたちの想う幸せの形を知り、感じたいと思いました。

世界にはまだ困難な環境の中で生活をしている子どもたちがたくさんいます。そのような子どもたちが描いた幸せの絵を見て頂き、子どもたちのことを知ってもらうことで、支える力が大きくなることを願っています。同時に、子どもたちの絵を通して、皆さんに幸せな気持ちになっていただければと思います。

今回、ストリートチルドレンたちが描いたカレンダーの絵は各界の著名人や国際協力に携わっている方など幅広い分野の方に選んでいただきました。カレンダーには選考者の方の「幸せを感じる時」も記載しています。カレンダーを手にとって下さった方々には子どもたちの幸せと選考者の方が思う幸せを見ていただき、様々な幸せの形を感じていただければと思います。

○2015 年度版チャリティカレンダー 4 月ページのご紹介



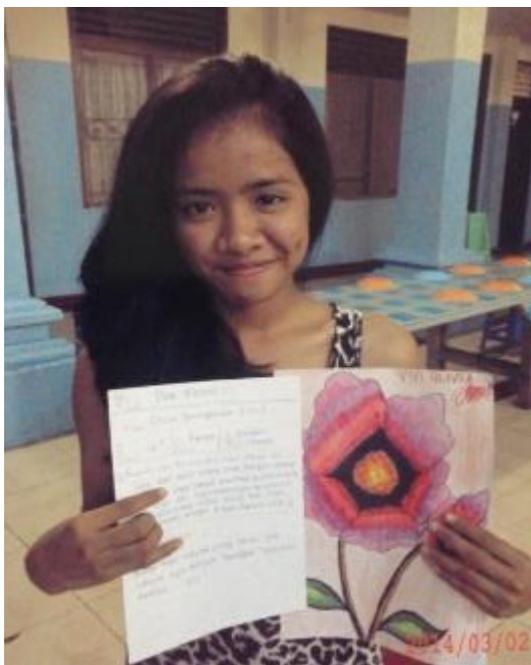
選考者：鈴木明子さん
プロフィギュアスケーター

～選考理由～

幸せを感じる時：大好きな人たちと笑っているとき。

～活動を通して伝えたいこと～

困難なこともひとつひとつ、少しずつ前に進んでいく。自分の未来のために今を一生懸命生きていくことを伝えたい。



4 月掲載作品作者のオリヴィアさん

オリヴィア さん（16）
国：インドネシア バリ島

幼少のころは優しく愛してくれる両親と共に住んでいたが、貧困のため孤児院への入所が決まった。

～絵を描いた理由～

私の夢は学業に励み、道を切り開くこと。有名なデザイナーになる為に頑張っていきたい。夢に向かって頑張ることは私の幸せ。

○2015 年度版チャリティカレンダー 絵の募集先について

チベット子ども村(インド[ダラムサラ])
Hope children's home こどもたちの希望の家(インドネシア)
愛センター(カンボジア)
Zambia Children New Life Center [ZeNeLiC](ザンビア)
The Glory Kibena Pre & Primary(キベナ小学校)
Mafinga Communtiy Welfare(MCW)(NGO) (タンザニア)
モンゴルこども支援ネットワーク[IVNMC](モンゴル)

2015 年度版チャリティカレンダーの制作に伴い、2014 年は各 6 か国から絵の募集をかけ、計 139 点の絵が集まりました。

○2015 年度チャリティカレンダー 選考者紹介

月	選考者	活動内容
表紙	北川 悠仁さん(ゆず)	歌手・アフリカの難民支援活動・東日本大震災の復興支援活動
1月	イルカさん	シンガーソングライター・IUCN国際自然保護連合親善大使
2月	桑山 紀彦さん	心療内科医・NPO法人「地球のステージ」代表理事
3月	中島 洋一郎さん	ストリートチルドレン芸術祭代表
4月	鈴木 明子さん	プロフィギュアスケーター
5月	萩野 浩基さん	東北福祉大学学長
6月	公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン 仙台事務局長 松本 学さん	日本の経済的に豊かではない子どもたちに学校外の学習の機会を与え、子どもたちが家庭環境に関係なく自分の夢を達成できるような手助けをしている。
7月	さとう 宗幸さん	歌手
8月	上田 假奈代さん	詩人
9月	NPO法人アジア日本相互交流センターI・CAN(アイキャン)	貧困や紛争、災害などの「危機的状況」にあるフィリピンの子どもたちの教育や保健・医療・生計の向上などに取り組んでいる。
10月	岡田 真樹さん	在タンザニア日本大使
11月	大脇 崇さん	路地裏の子どもたちや愛ある家族の風景を求めて世界を旅する写真家
12月	熱海市立熱海中学校	ストリートチルドレンの活動を校内に伝える

2015 年版チャリティカレンダーでは 13 名の方に選考者となっていただきました。

4. 2014 年度活動概要

○原画展開催

毎年 100 点以上の原画が集まりますが、カレンダーへ選ばれるのはその中の 13 点だけです。しかし、作品の中にはまだまだ素晴らしいものがたくさんあります。カレンダーに選ばれなかった作品も多くの方に見ていただきたい、そして彼らの思いを伝えたいという思いから、直接見て、感じられる原画展を開催しております。

- ① ハビコレ 2014 国際ボランティア団体や震災関連の活動をしている団体が集まり、各ブースを設け出展

開催日時：2014 年 6 月 21 日(土) 場所：R-lounge (東京)



- ② せんだい地球フェスタ 様々な国際交流・国際協力団体が集まるイベント

開催日時：8 月 3 日(日) 場所：仙台国際センター



- ③ 東北福祉大学学園祭「国見祭」 原画展・報告会・幸せアンケートを実施
開催日時：2014年10月25日(土)26日(日)



- ④ 東京原画展

開催日時：2015年3月12日(木) 場所：東京デザインフェスタギャラリー



※日本財団学生ボランティアセンターからの助成により実現しました（後述）。

○2015年版チャリティカレンダー街頭販売会

開催日時：2014年11月30日(日) 場所：仙台藤崎百貨店

今年度も、仙台老舗百貨店である藤崎様のご協力を頂き街頭販売を行いました。多くの方にカレンダーを手にとって頂き、子どもたちやストリートチルドレン芸術祭の活動について知って頂ける機会となりました。



○2015年版チャリティカレンダー完成報告会

開催日時：2014年11月23日(日) 場所：東京 JICA 地球ひろば

報告会テーマ：ストリートチルドレン芸術祭 2015年版カレンダー完成報告会

～彼らの描く「幸せ」のかたち～

今回の報告会では、第一部に活動報告およびカレンダーについての報告、第二部にはゲストスピーカーをお招きし、パネルディスカッションを行いました。ディスカッションでは「平和なあしたをこどもたちに」をテーマとし、これから先の未来やパネラー自身の実体験をもとにお話し頂き、来場した方々も含めテーマにある平和について考える場を設けました。

プログラム

第一部 今年度活動報告及びカレンダー完成報告について

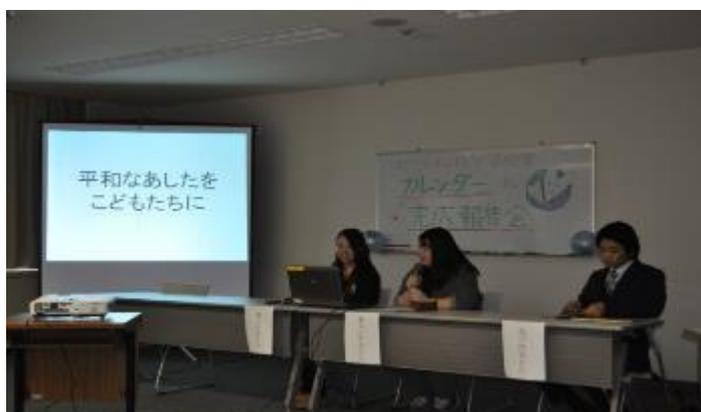
第二部 パネルディスカッション 「平和なあしたを子どもたちに」



カレンダー完成報告



今年度活動報告



パネルディスカッション

○カンボジアスタディツアー

開催日時：2014年12月23日(火)～29日(月)

2014年度ストリートチルドレン芸術祭スタディツアーは、カンボジアで行われました。過去のスタディツアーは、2008年、2009年、2010年、2012年と4回にわたり実施されてきましたが、そのうちの2009年と2012年はいずれもカンボジアで行われています。スタディツアーを実施にするにあたり、カンボジアの首都プノンペンでフリースクール「愛センター」を主催する渡辺藍さんのご協力をいただきました。

活動は「愛センター」への支援と交流を中心に、プノンペン市内のごみ山や水上学校、郊外の小学校訪問など、彼らの生活の現状を知るとともに、カンボジアの教育の実態についても触れることができました。「愛センター」では子どもたちと歌を歌ったり、大きな1枚の紙にみんなで絵を描いたりと様々な企画を通し、子どもたちと触れ合うことができました。

他にも、世界遺産のアンコールワットや地雷博物館など、カンボジアの文化や歴史について触れ、多くの学びを得ることができました



プノンペン市内の水上学校（上）



愛センター訪問（上・下）



○その他の活動内容

(1) 青年海外協力隊 「世界の笑顔のために」 プログラムへの参加

このプログラムは、開発途上国で必要とされているスポーツや教育などの物品を日本国内で募集をかけ、JICAが派遣中のボランティアを通し、それらを世界各地へ届けるというものです。

現在タンザニアへ派遣中の東北福祉大学卒業生の方の協力を得て、ストリートチルドレン芸術祭は初めてこのプログラムへ参加しました。物品はサッカーボールとサッカーユニホームを届けました。この物品はJICA側を通じて、現地のニグンバ小学校へと届けられました。

・物品が届けられる前の様子



手作りで作られたサッカーボール。
布、鉄、糸、紙でできている。

タンザニアではサッカーが大人気。休み
時間サッカーを楽しむ様子。

・物品が届けられた後の様子



男子も女子も新しいサッカーボール・サッカーユニホームが届き、大はしゃぎ。

(2) Gakuvo (日本財団学生ボランティアセンター)

Gakuvo は、ボランティア活動などの社会貢献活動を通して、成長する学生を応援するものです。

団体の活動領域に応じて3つのコースがあり、ストリートチルドレン芸術祭はその中のCコースの Baca・Vo へ応募しました。一次では書類審査、二次ではプレゼン審査があり、それらを通過したのちに、支援金 30 万円を頂けます。その後も活動経過報告をHPへの記載や、全体の活動報告会なども行われます。

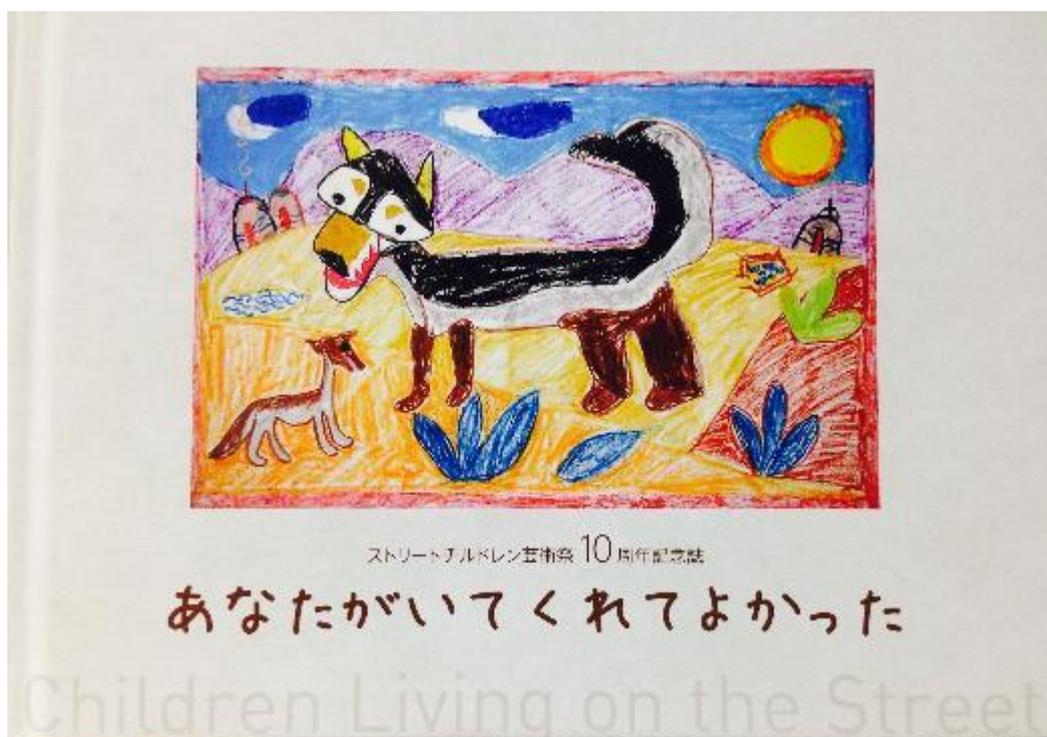
支援金 30 万円は、先にも記したように 3 月に行われた東京原画展の費用へと使用しました。原画展では多くの方に子どもたちの絵を見ていただき、絵を通して子どもたちのメッセージを感じ取っていただくことができました。

来場者の方々は、各々で絵を見ての感想をもち、「衝撃を受けた」との声も聞かれました。また、会場の担当者の方が、原画展の様子をブログに掲載していただきました。



(3) 10周年記念誌

ストリートチルドレン芸術祭が今年で10周年を迎えるにあたり、10周年記念誌を刊行しました。記念誌では、芸術祭が活動してきた10年の歩み、活動に参加されている方々の思い、そして何よりも子どもたちが描いた10年分の作品が掲載してあります。子どもたちの絵からは、いつもたくさんのパワーをもらいます。そんな彼らの思いを感じ取って頂きたいです。10周年記念誌を通して、より多くの方に絵を見て頂く機会が増えればと思います。



5. 2014 年度会計報告

(1) 2014 年度決算

I. 収入の部		II. 支出の部	
1. カレンダー売上金	1,780,000	1. カレンダー印刷費	753,408
2. 寄附金	534,033	2. 支援金	1,400,000
3. 助成金	300,000	2. イベント費	141,065
4. 雑収入	977	3. カレンダー等発送費	68,127
当期収入合計(A)	2,615,010	4. 事務消耗品費	124,632
		5. 交通費	716,383
		6. 実行委員打ち合わせ・会議費	24,570
		7. 対外打ち合わせ・交渉費	18,470
		8. 諸手数料	1,802
		9. ホームページ運営費	34,382
		当期支出合計(B)	3,282,839

(単位：円)

当期収支差額(A)－(B)	-667,829
前年度繰越金	3003737
次期繰越金	2,335,908

(2) 2015 年度予算案

(単位：円)

I. 収入		II. 支出	
前年度繰越金	2,335,908	カレンダー印刷費	750,000
		支援金	600,000
		イベント費	250,000
		活動運営費	650,000
		予備費	85,908
合計	2,335,908	合計	2,335,908

○2014 年度寄付実績

・海外支援 各 6 ヲ所

寄付金先	概要
チベット子ども村(インド[ダラムサラ])	TCV(チベット子供村)の職業訓練校は、チベットの人達が暮らす地域においては、一番大きな職業訓練校である。そこには電気コースやPCコース、ベーカリーコースなど様々なコースがある。また、チベット難民の子ども支援にも携わる。
愛センター(カンボジア)	愛センターではカンボジアの恵まれない子どもたちにクメール語、算数、理科、英語、日本語の教育を行っている。
ZeNeLiC(Zambia Children New Life Center)(ザンビア)	親のいない子どもや社会的に弱い立場にある子どもたちの支援。
エクマツラ(バングラデシュ)	エクマツラではストリートチルドレンの支援活動と啓発活動の二つを軸に活動している。
カーサ・アリアンサ(メキシコ・グアテマラ)	カーサ・アリアンサはグアテマラで設立後、メキシコでも設立し、活動としてはストリートチルドレンの救済、育成を行う。
モンゴル子ども支援ネットワーク(モンゴル)	モンゴルへの食料援助と教育援助の2つを活動の柱としており、モンゴルの孤児院の支援、奨学生の援助、文化交流等も行っている。

海外支援先は 2014 年度版チャリティカレンダーの絵の募集先に当てています。

・日本(復興支援)各 8 ヲ所

寄付先	寄付金使用用途
宮城県美田園仮設住宅	仮設住宅内での物資(生活必需品)や商品券(子どもたちのため)として使用
岩手県釜石市立釜石東中学校	学校内の生徒会費や図書費として使用
岩手県釜石天神仮設住宅	仮設住宅内でのイベント費に使用
福島県浪江町立浪江中学校	学校の図書費として使用
NPO法人 子ども村東北(宮城県)	子ども村東北は震災など様々な事情で家族と暮らせなくなった子ども達(里子)と育親(里親)への支援をしている。運営はすべて支援金で賄われている。一棟の建物費用は2000万、また年間の運営費用は3000~5000万掛かる。寄付金は運営費として使用。
東日本大震災ふくしま子ども寄附金(福島県)	震災により、保護者が死亡または行方不明となった孤児、遺児に対しての支援を行っている。寄付金は、その子どもたちの生活支援として使用。
リンダ・オオハマさん	寄付金は、東日本大震災復興支援映画「東北の新月」の映画制作費として使用。「東北の新月」は岩手・宮城・福島の3県を舞台とした震災ドキュメンタリー映画。大震災を記録映画に残すことを決めてから2年半、リンダさんは何度も現地へ足を運び取材を続けた。スポンサーなしで制作費は自費、またリンダさんを応援している方からの援助のみで動いているため、資金不足の状態。
橋本信子さん(宮城県)	橋本さんは被災しながらも、震災直後から被災地にボランティアで来てくれる人たちに炊き出しを無料提供している。その活動は今もなお、続いている。今までの炊き出しの費用は自費からであった。寄付金はボランティアで足を運んでくる人たちの炊き出し費として使用。

東日本大震災が起きた 2011 年からストリートチルドレン芸術祭は、震災で被害に遭った各地へ寄付金を届けています。そして 2014 年度版チャリティカレンダーでは震災復興版として被災者と被災者を支える支援者の方々にカレンダーの選考者となっていただき、被災地で暮らす人たちの思いを伝えてきました。2014 年度版チャリティカレンダーの収益金も被災地へと届けることができました。上記に挙げた、震災支援先へは現地へ直接伺い、3 年がすぎた被災地の様子やそこで暮らす人たちの声を聞いてきました。

2014 年の寄付先ではじめて名前があがった浪江中学校では、ストリートチルドレン芸術祭の学生メンバーの中に浪江出身の学生がいたことから寄付金の受け渡しが実現しました。

浪江中学校では文部科学省が提示する図書数 5400 冊とされていますが、現在は 1868 冊で、2528 冊足りない状況です。寄付金使用用途としては、本の購入に使用し、子どもたちが多くの本を読んで許容を広げたり、文学への感性を養ってほしいと願っているとのことでした。復興状況については、震災時から進んでおらず、修復を行うにも放射線の影響により浪江町に入るには行政の許可が必要である状態です。平成 29 年には、何とか浪江町に帰りたいたいとお話していました。現在の浪江中学校の状況は、400 人近くいた生徒は、28 人となりました。また、全ての生徒は仮設住宅から通っており、その中には 1 時間 30 分以上かけて通学している子もいます。そして、心に傷を負っている子どもも多く、集団不適應の子どももいる為、少人数の生徒に対し、教師は 20 名と多めに配置され手厚く指導を行い配慮されているそうです。

2014 年は海外支援 6 か国、日本（震災復興支援）8 か所に各 10 万円ずつの計 140 万円の寄付金を届けることができました。これも、カレンダーをご購入して下さった方々、カレンダー制作に関わった全ての方々のご協力があったからです。

○2015 年寄付先予定

2015 年の寄付先は、前頁にも紹介しました通り、2015 年度版チャリティカレンダーの絵の募集先、インド・インドネシア（バリ島）・カンボジア・タンザニア・ザンビア・モンゴルの 6 か国に各 10 万円ずつの寄付金を届けようと予定しております。



寄付金受け渡しの様子

7. 終わりに

ストリートチルドレン芸術祭の活動が今年で10周年を迎えました。私たち東北福祉大学が参加してから8年、そして事務局機能が移転して4年となります。

私たちの活動の第一の目的は、カレンダーの売り上げなどによる子どもたちの生活支援・学習支援です。さらに彼らが描く絵を通じて支援することによって、世の中で必要とされていないと感じている子どもたちが自らの存在意義やがんばる喜びを感じる契機となっている、という効果も生んでいます。この活動を通じてひとりでも多くの子どもたちが路上生活から解放され、自立できることを願ってやみません。

第二に、世界中で路上生活を余儀なくされている子どもたちの存在、貧しい途上国で起きている貧困や格差の問題はこの豊かな国に住む私たちにとってとても遠いところで起きている話に感じられます。しかし、グローバル化の進行する世界にあって、私たちが消費している食品や生活必需品がこうした子どもたちの児童労働の結果であったりします。まずはそうした事実を目を向けること、知り、識ることが重要であり、世界をよりよくしていくための第一歩となるのではないのでしょうか。チャリティカレンダー制作やイベントの開催を通じて数多くの方々にこの事実を伝えていきたいと思えます。

そして第三に、この活動は支援している私たち自身の学びの場そのものです。学生たちはカレンダーを購入してくださる方々や協賛してくださる方々に活動の趣旨をお伝えするため、日々勉強を重ねています。ほぼ毎年行っているスタディツアーでは、途上国のストリートチルドレンと直にふれあい、彼らを支援する現地NGOのスタッフと交流することで、普段の生活では決して得られない貴重な体験を得ながら成長していきます。

団体の立ち上げに尽力された静岡県熱海市立小嵐中学校校長（当時）の中島洋一郎先生と生徒たち、田中章義さんをはじめ、多くの方々が現在も支援を続けてくださっています。発足当時の中学生たちの中には現在社会人となっても活動を支えてくれているメンバーもいます。また、本学で在学中に活動した後、多くのメンバーが卒業後も支援を続けています。

何より、この活動が10年を迎えることができたのは、冒頭のご挨拶にもありますように、チャリティカレンダーの購入やイベントへの参加を通じてこの活動を支援して下さる方々、協賛して下さる方々の存在があってのことです。

この素晴らしい活動が10周年を迎えることができた喜びを感じる一方で、さらなる活動の充実を目指したいと思わずにはられません。今後ともストリートチルドレン芸術祭の活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

2014年5月吉日

ストリートチルドレン芸術祭事務局 生田目学文

〒981-8522 仙台市青葉区国見 1-8-1 東北福祉大学・生田目研究室内
TEL&FAX : 022-301-1260
E-mail : charity@tfu-mail.tfu.ac.jp
HP : <http://www.children-smile.com/>